

平成 30 年 1 月 16 日

上田信隆

「A I」と「俳句」 ～誰でも芭蕉になれるか～

1. A Iのこの頃

- 囲碁・将棋は名人に勝つようになった。
- 小説は新人賞にノミネート出来るまでなった。
- 自動運転は東京オリンピックに間に合うかもしれない。
- 銀行、証券の窓口業務は大幅に減る気配がある。

間違いなく現在は第四次産業革命に入っている。

[内閣府の資料を添付]

2. 今後のA I

- 人間の脳細胞の研究が急速に進みつつある。
- 人間が出来ることは可能になってきている。
- これからはロボットがロボットを作り、プログラムが自動的にプログラムを作成する可能性がでてきた。人間が人間をつくる日も遠くない。
- 複合の科学技術の集積が求められている。言語学、情報工学医学等など

大切なことはどこで歯止めを掛けなければならないかということである。

人間があれば必ず使いたがる習性がある。

いまこそ倫理、哲学、教育が大切だと思う。

[例 勝浦旅行の話]

3. AIで俳句は出来るか

(1) 俳句の現状

平均年齢 75歳

俳句人口

俳人協会 会長 大串 章 鷹羽狩行 山崎ひさを (15,000人)	現代俳句協会 会長 宮坂静生 金子兜太 中村和弘 (12,000人)	日本伝統俳句協会 会長 稲畑汀子 星野高士 山田佳乃 (8,000人)
---	--	---

俳句総合誌 NHK俳句 (30,000部) 角川俳句 (20,000部) 本阿弥俳壇 (10,000部) 俳句四季 (8,000部)

俳句結社 500人以上

ほととぎす、天為、狩、鷹、海程、未来図、馬酔木、沖

会費 入会費 15,000円 句会費 1,500円

原稿料 総合誌 頁3,000円~5,000円 結社誌 10,000~20,000円

新聞の選者 年間(4回/月) 朝日新聞 1,000万 4名(金子、稲畑、大串、長谷川)

(2) 俳句の歴史

松尾芭蕉 正岡子規、高浜虚子 水原秋櫻子 石田波郷
新興俳句 第二芸術論 中村草田男
石田波郷
山本健吉(人間探究派)

(3) 俳句の三本柱

- ① 定型 575 5/75 57/5 (一物仕立て)(二物配合=取り合わせ)
- ② 季語(季題)
- ③ 切れ字

(4) 俳句の特徴

- ・著作権が無い: 類句、類想による批判。大量データを扱う場合に支障が無い
- ・若者が少ない
- ・評価が一定してない: 結社、協会、総合誌、等の新人賞、協会賞、大賞による評価
- ・句集、俳句評論、研究の書物が高い: 2,000円~8,000円

[参考 句集の価格 主宰への謝礼20万~30万 本の印刷代100万以上]

①定型について

一物仕立て

咲き満ちてこぼるゝ花もなかりけり 高浜虚子
翅わつててんとう虫の飛びいぢる 高野素十

取り合わせ

此の道や行く人なしに秋の暮 松尾芭蕉
七夕や髪ぬれしまま人と逢ふ 橋本多佳子
玫瑰や今も沖には未来あり 中村草田男
芋の露連山影を正しくす 飯田蛇笏
みずうみに四五枚洗ふ障子かな 大峰あきら
一瞬にしてみな遺品雲の峰 權未知子
瓦礫みんな人間のもの犬ふぐり 高野ムツオ
石鹼に角といふもの初湯殿 片山由美子

②季語について

夏草や兵どもが夢の跡 松尾芭蕉 杜甫「春望」国破れて山河あり
夏草に機関車の車輪来て止まる 山口誓子

降る雪や明治は遠くなりけり 中村草田男

箒木に影といふものありけり 高浜虚子

裏かえる亀思ふべし鳴けるなり 石川佳朗

新しい季語

初しぐれ猿も小蓑をほしげ也 松尾芭蕉
万緑の中や吾子の歯生え初むる 中村草田男

無季

ふつと影がかすめていつた風 種田山頭火
大いなる星ひとつ澄み旅の空かな 荻原井和泉水
たつた一人になりきつて夕空 尾崎放哉
見えぬ眼の方の眼鏡の玉を拭き 日野草城
しんしんと肺碧きまで海のたび 篠原鳳作

③切れについて

流燈や一つにはかにさかのぼる	飯田蛇笏
くろがねの秋の風鈴鳴けにけり	々
極寒の塵もとがめず／巖ふすま	々
／炎天の檜のごとくに涼気すぐ／	々
仰山に猫みやはるわ／春灯	久保田万太郎
菊の香や／奈良には古き仏達	松尾芭蕉
荒海や／佐渡に横たふ天の川	々
象潟や／雨に西施が合歡の花	々
初富士を隠さうべしや／深庇	阿波野青畝
ひつばれる糸まつすぐや／甲虫	高野素十
遠山に日の当たりたる枯野かな	高浜虚子
滝の上に水現れて落ちにけり	後藤夜半

パターンを覚える

鎌倉のどこから話そ桜餅	高橋淡路女
あっそれは私のいのち烏瓜	正木ゆう子
佐渡ヶ島ほどに布団を離しけり	權未知子
断崖をもつて果たる花野かな	片山由美子
万有引力あり馬鈴薯にくぼみあり	奥坂まや
蓑虫の蓑あまりにもありあわせ	飯嶋晴子

句をたくさん作る 一日5句から10句
選をたくさんする 句会に出る 月に2回から3回
古典を読む
吟行を重ねる
俳句を上手くなるには上記の実行が効果があると思う。
(根拠なし 気合いを入れる、練習あるのみ)

結論 論理的にはAIで俳句は出来る 数値で解ければ
AIが人間の頭脳になるには現在あまりにも時間がかかると思われる。
人間が尊敬されるためには未知の領域に進まない方がよい。
余計なことを考えずに楽しめばよい。

以上